

## 第1回 蕨市行政改革プラン策定に係る市民懇談会 会議概要

■日 時 令和元年7月17日（水） 午後1：30～3：15

■場 所 市役所4階 第1委員会室

■出席者（敬称略）

委 員：林 大樹、秋山 滋雄、長谷川 浩司、岡本 和子、鈴木 真司、植田 富美子  
箕輪 晴助、杉本 孝一郎、南保 晴人、笹渕 敏子

頼高 英雄市長

事務局：佐藤 慎也（総務部長）、有里 友希（総務部政策企画室長）  
島田 雅也（政策企画室長補佐）、森本 悠理（政策企画室主事）  
仲田 翼（政策企画室主事）

### ■次 第

1. 開会
2. 委嘱状交付
3. 市長あいさつ
4. 自己紹介
5. 会長選出
6. 議題
  - （1）会議の公開、傍聴に係る取り決めについて
  - （2）市民懇談会の概要等について
  - （3）「コンパクトシティ蕨」将来ビジョン推進プランの進捗状況等について
  - （4）意見交換
  - （5）その他
7. 閉会

### ■内 容

【開会】

【委嘱状交付】

【市長あいさつ】

【自己紹介】

【会長選出】

会長に林委員を選出。

【議題】

（１）会議の公開、傍聴に係る取り決めについて

事務局から、会議の公開について概要を説明した。（資料３・４参照）

⇒会議の公開、傍聴に係る取り決めについて、資料３「蕨市審議会等の会議の公開に関する要綱」および資料４「蕨市行政改革プラン策定に係る市民懇談会の傍聴にかかる取り決め（案）」のとおり取り扱うことでした承し、傍聴の定員は４人と定めた。

（２）市民懇談会の概要等について

事務局から市民懇談会の概要等について説明した（資料５参照）。

（３）「コンパクトシティ蕨」将来ビジョン推進プランの進捗状況等について

事務局から、「コンパクトシティ蕨」将来ビジョン推進プランの進捗状況等について説明した（資料６・資料７参照）。

（４）意見交換

各委員から、次のとおり意見・質問等をいただいた。

委 員：歳入・歳出について、現状はバランスが取れているが、今後の扶助費の増加を踏まえて次期行政改革プランを推進する必要があると思う。また、職員数の適正化について、現状を教えてほしい。

事 務 局：定員管理の方針として、単純労務職員の退職不補充としているほか、業務は増大しているが、一定の枠内の人数でやりくりしている。ただし、病院医療職については、経営状況に応じた採用が求められるので、その枠からは除外している。なお、近年は、福祉部門の需要増や新庁舎建設に伴う臨時配置などで職員数は増加している。

委 員：年金の支給開始年齢の引上げに伴う６５歳までの再任用の現状を教えてほしい。

事 務 局：昔は３割程度の職員が再任用を希望していたが、最近は希望者が半分以上にのぼる。

委 員：再任用職員も定員管理の対象になるのか。

事 務 局：対象となる。

委 員：再任用職員の数が増えると新入職員の採用は抑えられるのか。

事 務 局：そのとおりである。

委員：新たな行政改革プランの推進項目は、現状の項目がベースとなるのか。それとも新たに見直しを行うのか。

事務局：現行のプランにおける３つの柱「協働の更なる推進」「職員力・組織力の更なる向上」「自律した行財政運営」は、上位計画と関連するため、引き続き踏襲する予定である。ただし、柱に位置づけられる具体的な項目については、継続、新規のいずれもあり得る。

委員：庁内の会議で、項目に係る事務局案を提示する機会があったのか。

事務局：現時点ではないため、今後皆さんの意見を聞きながら項目案を検討していきたい。

委員：平成３０年度職員提案制度における具体的な内容を教えてほしい。

事務局：成果功績としては、FM NACK 5「あなたの街自慢CM」コンテストで準グランプリを取って放映されたCMを作成した職員と、被災地に災害派遣された職員を表彰した。業務改善としては、証明書を取得する外国人対応の際に用いる応答シートを日英対応にした工夫などがあげられた。その他、町会掲示板を活用した災害時の避難誘導などが提案された。

委員：提案は予算措置を伴うのか。

事務局：身近な気づき等に関する提案が多い。

委員：高齢者世代は年金への意識が希薄であり、ケアマネージャーとして受ける相談の中には金銭的な問題も多い。蕨市の財源について、競艇収入は大幅に減少しており、工場数が少なく、高齢化の進展で年金受給者が多いため、今後の税収も危惧される。

事務局：市税収入は近年上昇しており、生産年齢人口の割合は県内でも高いが、高齢化の進展で状況が変化する可能性もあり、油断できないと認識している。

会長：ふるさと納税の税収に対する影響はどれくらいか。

事務局：資料６で概要をまとめているが、平成３０年度の実受額は３，０００万円、直近で判明している平成２９年度におけるふるさと納税で控除された税収額は８，５００万円であり、恐らく受入実績はマイナスとなっていると思われる。

委員：蕨市は、２０代～３０代の転出入が多いが、この世代は家庭をもって定住する親世代にあたる。外国人人口が増えるなか、市内小・中学校の各クラスには、外国籍の子どもが２，３人はいる。教育センターで集中して日本語教育を行っているが、中学校で学習スピードが上がるなか、年齢的・身体的にも成長が進むため周囲との関係性を築くのは難しいようである。また、教職員やPTAが保護者とコミュニケーションを行うのも困難な現状がある。  
資料６の実施項目「行政課題解決に向けた大学連携」で日本語学校との連携を図っているが、教育現場では言葉の壁や風習・文化の違いで相互理解が難

しい現状があるので、大学も含めた連携により、教職員の組織力向上につながる内容を次期行政改革プランに盛り込んでほしい。

委員：資料6の進捗状況で実施済の項目は、次期行政改革プランには入らないのか。

事務局：今後の5年間で特に進める内容がない場合は外すことが考えられる一方で、更に課題があつて拡充や改善が見込まれる場合は継続もあり得る。

委員：計画期間の5年間は長いようで短い。世の中の動きは早いため、目標の達成後も違う課題が出てくる。駅西口再開発事業で大きなマンションが建ったが、未整備で放置されている土地もある。「土地開発公社の経営健全化」など長期的な取組は、時代の変化に即した内容にしないと机上の空論になる。

また、蕨の顔である蕨ピアロード商店街の道路は、何十年も整備されておらず、状態が悪い。我々も努力して声を出していくが、魅力ある商店街にするためには、市民や様々な人と協働して改革を進めるプランを作る必要がある。

会長：この会議においては、3つの柱を前提にして、そこに位置付けられる推進項目・実施項目について意見を出すということによいか。

事務局：厳密に推進項目・実施項目を区切って意見をもらうのは難しいと思うので、限定しなくてもよい。いただいた意見については、事務局で分類して、可能なものは反映していきたい。

委員：資料7について、蕨市の歳入金額はトータルでいくらか。歳出と同様に歳入も内訳を示した方が分かりやすいと思う。また、外国人人口が年々増えているが、住まいの確保はできているのか。

事務局：歳入総額については、後日確認して回答する（平成29年度普通会計歳入総額：約251.4億円）。また、住民基本台帳に登録されている外国人の住居は確保されている。

会長：実際の居住実態の調査は行っているのか。

事務局：国勢調査の項目に含まれている可能性はあるが、市としての調査は実施していない。

委員：国勢調査で住居を訪問すると大勢の人が住んでいる場合があるが、代表者1人が住民登録を行っているのか。

事務局：対象となる居住者は全員住民登録を行うこととなるが、不法滞在者については、把握できていない部分はある。

委員：蕨市は外国人が県内一多いとのことだが、川口市の方が多いように思える。

事務局：外国人の比率としては蕨市が県内市町村で一番高い。

委員：外国人人口の統計資料を見ると過去5年間で倍増している。協働は外国人と協力して行う時代へと変わってきており、ダイバーシティ&インクルージョン（多様性の受容）の考え方にに基づき、不法な方がいたとしても基本的人権を尊重し、国籍で差別することなく、真摯に向き合う必要がある。

また、3つの柱に「職員力・組織力の更なる向上」があるが、市立図書館のホームページに「駐車台数に限りがあるため、近隣店舗の駐車場に駐車しないほしい。利用者が多い土・日・祝日は、自転車やバスを利用してほしい」という案内があった。しかし、錦町地区など遠方に在住しており、車を使わざるを得ない市民もいる。周りの店舗と協働して駐車場を確保するなど、もう少し知恵を絞る職員がいてもよいと思う。

委員：今後の進め方を確認したい。この懇談会で次期行政改革プランを作るのか。

会長：プランを作成するのは市で、この懇談会では市がプランを作成するにあたっての意見を頂戴したい。

委員：資料6において、実施項目「講師養成講座への職員派遣」を実施済としているが、判断基準が分からない。講座を受けた後に庁内で発揮する機会があったのか。

また、実施項目「健康で元気に働く職員・職場づくりの推進」について、「メンタルヘルス研修を行ったとあるが、心身を病んで休職している職員はいるのか。対象者へ適切な対応を取ることが、組織力や職員力の向上につながると思う。

事務局：接遇講師養成講座を受講した職員は、庁内の新人職員研修における講師を務め、職員のモデルとなっている。病気で休職している職員はいるが、近年はストレスチェックを実施し、医師の面談を経て、人事課・職場と連携したり、病休者について円滑に職場復帰できるよう支援したり、以前よりきめ細かに対応している。

委員：職員力に注目している。資料6の実施項目「行政課題の解決に向けた大学連携」について、王子国際語学院と連携して、「様々な課題について提案や実践をいただいた」とあるが、具体的に何を行ったのか。

事務局：昨年度に始まったため、多くの取組はないが、ベトナム語のゴミ出しマニュアルを作成してもらうとともに、市内医療機関一覧にある診療科名について、英語・中国語訳を提案してもらった。今後も有効な取組や連携ができればよいと考えている。

委員：町会に加入している外国人は少ないため、ごみの出し方や曜日が守られずに困っている。ごみ出しマニュアルの多言語化だけでなく、ごみ置き場への掲示も手伝ってほしい。また、外国籍の大学生・大学院生は専門学生とは異なる経験を持っている。ボランティアとして組み入れて協働することで、窓口職員の言葉の壁をカバーし、業務負担を減らせると思う。

委員：外国人の増加は今後も進むため、転入時に、市や町会のルールやマナーをしっかりと説明し、話し合いをできる環境を作ることが大切になる。

実施項目「民間企業等との連携協定の締結」について、防犯・防災分野では、

平成28年度に市、町会長連絡協議会、警察が連携して「蕨市犯罪情報の住民提供等に関する協定」を締結した。協定に基づき、犯罪などの情報提供にあたって防災行政無線やケーブルテレビを活用しているが、より速やかに各家庭や市民に伝えられるシステムを確立したいと考えている。

また、現在、荒川氾濫時における浸水深表示に向けた調整を町会では行っているが、高台がない蕨は、強靱な建物であるマンションを一時避難場所として活用することについて、連携が進められたらよいと思う。

## **(5) その他**

事務局から、今後のスケジュールについて再度確認（資料5 参照）

会 長：次回の会議までに事務局から情報提供はあるのか。

事 務 局：市の内部で検討を進めた後、次期行政改革プランの項目案等について示したいと考えており、資料が取りまとめ次第、事前に配付したい。

会 長：今日発言できなかった意見や質問を事務局に提出してもよいか。

事 務 局：電話やメールで連絡をお願いしたい。

委 員：傍聴にかかる取り決めに、「映画等を撮影し、録音してはならない」とあるが、今後は「SNSなどで発信しない」を付け加えることも検討してよいのではないか。